

クリエイティブ京都 M&T

Management & Technology for Creative Kyoto

Jan.2010

01

No.052

CONTENTS

- P.1 平成22年 年頭のあいさつ
- P.3 特別寄稿
- P.5 京都ビジネス交流フェア2010開催案内
- P.7 ジェトロ京都情報デスク貿易セミナー
- P.9 北部企業紹介
- P.10 平成21年度「きょうと農商工連携応援ファンド支援事業」の採択について
- P.11 東京国際航空宇宙産業展2009
- P.13 設備貸与制度
- P.15 平成21年度京都中小企業優良企業表彰企業紹介
- P.17 京都発！我が社の強み
- P.19 けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会設立の紹介
- P.20 技術トレンド寄稿
- P.21 受発注コーナー
- P.23 行事予定表

否極泰来!次代を見据え、今を生き抜く

京都府産業支援センター会長 石田 明



新年あけましておめでとうございます。

今年の干支は「庚寅(かのえとら)」ですが、『庚』は草木の成長過程で新たな形に変化しようとする状態を言い、『寅』は動き、アクションを指す意味で、厳しい冬から春を迎えて草木が力強く芽吹く状態を言うのだそうです。われわれも混迷の続く時代から、新たな形を求めてより一層成長する年となるよう、皆様と共に進んで参りたいと存じます。

さて、去年は本当に大変な一年でしたが、昨今ではようやく中国などアジア圏への輸出回復や景気刺激策に牽引されて、緩やかに持ち直しの兆しが見え始めました。

一方、慢性的なデフレや雇用情勢の悪化など景気を下押しするリスクを抱え、先行きは依然として予断を許さない状況にあります。

しかし、「出口の無いトンネルは無い」、「朝の来ない夜は無い」のたてのようにより、「否極泰来」、つまり「不運の極に達すれば幸運に転じる」との故事成語のごとく、わたしたちは次代を見据え、今を生き抜いていかねばなりません。

それには、イノベーションの実現がなくてはならないものと思います。私はかねてより、企業の歴史はイノベーションの繰り返しであると申して参りましたが、皆様方におかれましても、自社の強みを再認識いただくとともに、知恵を出しあい共に連携してイノベーション(変革、進化)に挑戦し、今を生き抜くことが次代への第一歩ではないかと考えます。

そのような中で、設立6年目を迎える当センターは、昨年、中小企業者と農林漁業者との連携による取組を支援する「きょうと農商工連携応援ファンド」の創設や、元気な地域づくり応援ファンド事業や地域力連携拠点事業等の取組を進める一方、緊急雇用安定助成金制度の対象となる研修を開催するなど、府内中小企業の雇用確保のため精力的に取り組んでまいりました。

また、従来の定型的な依頼試験や機器使用だけでは対応できない技術的な課題解決を支援する取組みも府内全域で行ってきました。今年も引き続き、経営・技術の両面から府内中小企業の経営の安定化を支援してまいりたいと考えております。

皆様の一層のご理解とご活用をお願い申し上げますとともに、この一年のますますのご繁栄とご健勝を心からお祈り申し上げます。

明日の京都づくりは「人づくり」から

京都府知事 山田 啓二



府民の皆様、明けましておめでとうございます。

去年は、厳しい経済環境と急速な雇用情勢の悪化が続き、年が明けた今も府内の雇用・経済情勢は依然として大変厳しい状況にあります。

このように冷え込んでいる府内の雇用・経済や生活を少しでも回復に導きたいとの思いで、京都府では平成21年度予算を「京都温め予算」と位置付け、当初予算から補正予算を通じ、積極的に生活弱者対策や雇用経済対策に取り組んでまいりました。今年もまず、府民の皆様の「雇用」と「生活」を支えるため、京都を温める対策に全力で取り組んでまいる決意であります。

このような対策を進めるに当たり、私は、これらが単なる一過性の対策に陥らないよう、「京都未来を担う人づくり推進事業」や「地域公共人材養成事業」を新たに立ち上げるなど、未来を見据えた「人づくり」対策を積極的に講じてまいりました。

「人」こそ京都の最大の財産であります。昨年開催いたしました「京都 知恵と力の博覧会」では、八百を超える事業の参加をいただき、多くの方々に京都の底力を見ていただくことができました。こうした京都の「人」が持つ知恵と力を未来に向けてさらに高め、世界に発信していくためにも、「人づくり」が基本になると考えます。

最近、「地域主権」という言葉をよく耳にしますが、地域主権を実現するのも「人」であり、住民自治であります。私は、三年前に「地域力再生プロジェクト」を開始しましたが、この地域力もまさに住民の力であります。今、地域の皆様が地域のために自ら行動を起こし、それを京都府が支え、さらに他の地域の活動と交流・連携することで新たな活動の輪が確実に広がっています。

去年はさらに、府民の皆様から身近な安心安全のための改善箇所を提案いただく「府民公募型安心・安全整備事業」を全国で初めて実施し、二千件を超える応募をいただきました。地域の安心安全を自らの目で見直していただき、ご提案いただきましたことに感謝申し上げますとともに、これらの取り組みを通じて、地域が自ら動き、支え合ういわば「共立」の芽が生まれていることを感じています。

京都が世界に誇る「日本文化」や「環境との共生」を礎に、私は、府民の皆様の生活を支え、「知恵と力」を共に高め合う府政によって、明日の京都を創っていくことができるものと信じております。今年も、府民の皆様の府政への積極的な参加を心からお願い申し上げます。

結びに当たり、この一年の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

京都ブランドの基礎*

「京都ボーンアゲイン」というアイデアについては、『ハーバード・ビジネスレビュー』巻頭言の拙稿を出発点として、この情報誌にも続編を書いたことがある。それらの論稿で強調したことは、(1) 21世紀は「創造的都市」間の競争だということが言われているが、そのときにどのような創造性を問題にするかというカテゴリー転換が求められていること、(2) 京都には知識や精神を「かたち」にするという、いままさに世界が必要としている知識のつくりかたがある、という二つの論点である。ところが、この二つの論点をうまく結び付け、それを言葉で述べることは、かなり困難であったといわざるをえない。今回は、概念のイメージを示す写真を用いて、その問題に再度挑戦してみたい。

まず、第1の「創造性」という問題については、この言葉が一般にあまりにも多様な意味に使われすぎているので、そのこと自体を論ずることは不毛であるが、「京都ボーンアゲイン」という視点から取り上げるには、やはり最初に問題の焦点化(フレーミング)が必要である。

つまり、「卓越性」とか「崇高」という価値理念から、人々の日常的行為における創意工夫に至るまで、創造性に関する幅広い帯域があると考えたときに、京都はそれらのレベルの異なる創造性をどのように連結しうるのであるかという問題である。

論点をわかりやすくするために、経済社会を捉える枠組みを極めて単純化して次のような3層構造で考えてみよう。すなわち、正義、人権のような社会の根底的な価値規準を内容とする第1層と、その上に形成される経済循環を示す第2層と、さらにそれら二つの層の活動を導く卓越性や美という高次の理念からなる第3層である。

このように人間社会を3層としてとらえる思考は、筆者の独特なものではない。少し古い用語と哲学者を持ち出すように思われるかもしれないが、いまだに強い影響力をもつカントの「真」「善」「美」の3層の哲学を背景にしている。すなわち、カントの第一の著作『純粋理性批判』の用語でいえば「第1層」は人類にとっての普遍的な「真」を論じたものであり、正義とか人権の概念のように、外部に理由付けの根拠を必要とせず、それ自体として普遍的に承認される定言的な概念であり、それゆえに状況いかにかわらず適用される形式的な論理、あるいは倫理となることを主張

している。

それに対して、第二の著作『実践理性批判』は、実践において何が「善」となるかを論じたものであり、これまでに述べた3層構造でいえば、「第2層」の経済循環の問題にほかならない。有名な例をあげれば、アダムスミスのいう「見えざる手」が導く社会的な「善」である。われわれがおいしい



京都府特別参事、一橋大学名誉教授

今井 賢一

食事にありつけるのは、パン屋や米屋の利他的な善意によるのではなく、彼らがおいしいパンや米をつくって利益を上げようとする利己的な努力の恩恵なのだという種類の、社会の実践的理性の問題である。

現在の経済論議は以上の「第1層」すなわち「規制」のあり方と、「第2層」の社会的効率の問題で終わっていることが多い。しかし、カントによれば、それら二つの層を超えた問題、すなわち「第3層」の「卓越性」こそが重要だということになる。それが彼の第三著作『判断力批判』のテーマである。われわれの社会が単純に同じことを繰り返して進むのではなく、何らかの創造的な進化を求めているとすれば、卓越性が指導理念としてどこかに含まれなければならないであろう。とくに先進国では、「おいしいパン」の欲求はすでに十分に満たされている以上、「見えざる手」を超えた問題こそが、人々の生き甲斐を左右するようになってきている。本稿の最初の方で使った用語でいえば、現代の創造性のカテゴリー転換とは、この「第3層」の問題をどう取り込むかである。

しかし、「卓越性」なるものを具体的にどう表現できるのだろうか。カントの『判断力批判』は岩波文庫で上下2巻だが、それを読んでみても私には具体的なイメージが湧いてこない。強いていえば、ヨーロッパの教会の大伽藍に入ったときの崇高感が思い浮かぶ。しかし、ここで「神」を持ち出したのでは、議論は宙に浮いてしまうと思う。欧米系の経済学者は、アダムスミスの「見えざる手」を「神の手」というメタファーで説明することが多いが、そう言うことが、即「市場原理主義」につながり、議論は終わってしまうのである。

そこで以下では、「京都には知識や精神を<かたち>にするという、いままさに世界が必要とする知識のつくりかたがある」という論点を写真を使って例証してみよう。

私はスタンフォード日本センターの理事長をしていた

* 本稿は、「京都ボーンアゲイン」を議論する目的で、熊野英介氏の主宰する(株)「持続経済研究所」に定期的に集まっていた「志士の会」の一区切りにあたって、筆者が執筆した『「京都ボーンアゲイン」―回顧と展望』という小冊子の私自身の原稿をかなり引用しています。その小冊子自体をご希望の方は、kimai@stanford.edu に電子メールをいただければ、PDFファイルでの返信によりお届けします。

写真1 3層構造を象徴する青蓮院のクスノキ



10年間、ほぼ毎日のように知恩院の前を通り、青蓮院の堀の外側の築地の上に生育している2本の「クスノキ」の巨木を眺めて岡崎の事務所に通った。2本とも幹から大枝を伸ばし、クスノキに特徴的な半球形のこんもりしたみごとな樹冠を形成し、樹の勢も良く、実に見事なもので、これを見るとまさに身の引き締まる想いをしていた。

いまでも時々見に行くが、この原稿を書きながら私の言いたいことは、この「クスノキ」が象徴していると想い至った。それは、この巨木が単に「卓越性」を示しているということだけではない。「卓越性」の例を個別に挙げれば、仏像やら陶芸品やら、いくらでもあるが、この「クスノキ」は、本稿で述べている3層構造の全体にかかわる創造性を象徴していると言うことが出来るからである。なんといっても注目すべき点はこの「クスノキ」の根の張り方である。これは社会の場合でいえば、「第1層」、すなわち社会の倫理の層に

対応する。実にしっかりとネットワーク型の根が幅広く深く張られており、いつ見ても感動する。そして、その根の基盤の上に、樹と枝葉が、こんもりとした静かな勢いをもって成育し、秋には枯葉を落とし、春には新緑にかわる。まさに、第2層、すなわち経済循環に対応する部分が健全な創造性を持っていることを象徴している。そして、この木が天に向かって伸びながら、周囲に害をもたらすような形での巨木とならずに、凜として起立していることは、全体として第3層の卓越性なり、永遠性を示しているのである。

もう一つ身近な例を取り上げてみよう。かつて私は松岡正剛氏と共に、デジタル・アーカイブ「The Miyako」というプロジェクトで、京都での人々の生活ぶりの特徴を連想構造として浮かびあがらせる、という試みを行ったことがある。そのなかで、われわれがいま考察している文脈に関係して興味深いのは、京都の人々が、例えば「野菜」というものに込めてきた思いを3層構造に適合するように示すことに成功したことである。

すなわち、まず第2層の経済循環を錦市場での野菜の多様な流通方式の写真で示し(ここでは写真自体は省略)、その底辺には京都では野菜を祭るさまざまな行事があることを説明し、それが第1層にあたる京都人の野菜を大切にす倫理観となっていることを黙示する。そして最後に、伊藤若冲の「野菜涅槃図」と長谷川等伯の「釈迦涅槃図」を下に示すように並列して見せるのである。これはまさに、たんなる野菜、されど京野菜、われわれはその素晴らしい生命力を食しているのだという「卓越性」の表現である。

かくして、京都の野菜が上からの卓越性と、下からの倫理で柔らかに制御されていれば、その間に生まれる経済循環は京都野菜の「ブランド価値」を確実につくりあげるのである。

写真2 伊藤若冲の「野菜涅槃図」



写真3 長谷川等伯の「釈迦涅槃図」



「京都ビジネス交流フェア2010」開催のご案内

産・学・公が集う! 京都最大規模のビジネスイベント

- 日 時** 2010年2月18日(木)・19日(金) 10:00～17:00
- 会 場** パルスプラザ(京都府総合見本市会館)京都市伏見竹田(地下鉄「竹田」下車)
- 入場料** 無料
- 主 催** 京都府 財団法人京都産業21
- 共 催** 財団法人京都府総合見本市会館
- 後 援** 近畿経済産業局、京都市、京都商工会議所、社団法人京都経済同友会、社団法人京都工業会

*詳細については、ホームページをご覧ください。 <http://www.ki21.jp/bp2010/>

ものづくり加工技術展

京都府内のものづくり中小企業134社・18グループによる技術展示。

大展示場

両日開催10:00～17:00
財京都産業21 市場開拓グループ
TEL:075-315-8590
E-mail:market@ki21.jp

受発注商談会

自社製品の品質向上(モデルチェンジ)、コスト削減、新商品の企画等のために新技術、新工法を求め他社との連携を模索するメーカーと独自技術の開発等、優秀な技術を持ち提案型営業を得意とする中小企業とのマッチングの場を提供します。面談をご希望の方は、事前申込みが必要です。

※申込み受付は終了しています。

大展示場

両日開催11:00～16:15
財京都産業21 市場開拓グループ
TEL:075-315-8590
E-mail:market@ki21.jp

きょうと連携交流ひろば2010

積極的に“連携”に取り組んでいる企業、大学、連携グループ、金融機関、産学公研究開発グループなどが集い、経営革新や新事業チャレンジ支援等の事例、事業報告、成果発表を通して、新たな“連携”のヒントを見つけていただくために開催します。併せて、本年度技術顕彰受賞企業の技術展示を行います。

第1展示場

両日開催10:00～17:00
財京都産業21 連携推進部
TEL:075-315-9425
E-mail:suishin@ki21.jp

京都“ぎじゅつ”フォーラム2010

- (1)平成21年度京都中小企業技術大賞 表彰式
(2)講演 テーマ 「二次電池の用途拡大と自動車分野への展開」
講 師 株式会社ジーエス・ユアサ コーポレーション
経営戦略統括部 課長 沢井 研 氏



稲盛ホール

2月18日 10:30～12:10
財京都産業21
経営革新部 経営企画グループ
TEL:075-315-8848
E-mail:keieikikaku@ki21.jp

SCREEN

現代のデジタル社会を支え、今なお進化を遂げるエレクトロニクスの世界。

最先端の半導体、液晶パネル、インクジェット印刷など

さまざまな分野で私たち独自のテクノロジーが息づいています。

技術開発への飽くなきチャレンジと地球環境に優しいモノづくりを通じて、

人々の快適な暮らしをサポートしたい ——。

私たちは、大日本スクリーンです。



大日本スクリーン製造株式会社

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目 www.screen.co.jp

【同時開催事業】

インキュベートのみやこ推進事業

京都府内インキュベート施設入居企業の製品・技術展示等の連携・マッチングの場

大展示場

両日開催 10:00 ~ 17:00
京都府商工労働観光部 ものづくり振興課
TEL: 075-414-4852
E-mail: monozukuri@pref.kyoto.lg.jp

ものづくりの課題解決のためのデザインマッチング

KYOTO DESIGN WORK SHOW

社会や顧客に向けて新しい価値を創造し、提供するために必要不可欠な「デザイン」を得るチャンスです！

大展示場

両日開催 10:00 ~ 17:00
京都府中小企業技術センター 企画連携課
TEL: 075-315-9506
E-mail: design@mtc.pref.kyoto.lg.jp

京都商工会議所 知恵産業のまち・京都の推進

一京都府ビジネスモデル創出事業 認定企業を紹介しすー

- 中小企業でも導入可能な世界SaaS 次世代ワークフロー「Questetra BPM Suite」……………(株)クエストトラ
- 個別対応だからこそ安価に出来る フルオーダー生産管理システム「一寸法師」……………(株)フェムト

大展示場

両日開催 10:00 ~ 17:00
京都商工会議所 知恵ビジネス推進室
TEL: 075-212-6470
E-mail: bmpj@kyo.or.jp

i-MiEV(電気自動車)展示・試乗

展示・試乗協力: 京都三菱自動車販売株式会社

展示・試乗場所: パルスプラザ多目的広場

※試乗はパルスプラザ周辺道路となります。



両日開催 10:00 ~ 17:00

下請取引改善講習会

「下請代金支払遅延等防止法及び下請中小企業振興法の概要」

「下請代金支払遅延等防止法の詳細」「下請適正取引ガイドラインの説明」等受講対象者は主に資材、購買、外注等の業務を担当、または管理されている方々など。

事前申込みが必要です。詳しくは右記へお問い合わせください。

5F ラウンジ

2月18日 13:00 ~ 16:00
財全国中小企業取引振興協会 下請取引改善講習係
TEL: 03-5541-6688
URL: http://www.zenkyo.or.jp

エコビジネスセミナー

【第1部】環境ビジネス講演会(10:30 ~ 11:20)

「環境ビジネスの市場動向とこれからのビジネスチャンス」 講師: エコビジネスネットワーク代表 安藤 真 氏

【第2部】環境ビジネス研究成果発表(11:20 ~ 11:50)

「RITEの概要と産業界との連携」 講師: RITE 村上 嘉孝 氏

【第3部】環境ビジネス事例発表(11:50 ~ 12:30)

京都の環境関連先端企業による産業動向の展望 事例発表

5F ラウンジ

2月19日 10:30 ~ 12:30
京都産業エコ推進機構事務局:
京都府ものづくり振興課
TEL: 075-414-4852
URL: http://www.kyoto-eco/entry/index.html

ジェトロ京都情報デスク国際化セミナー

テーマ: 「金融危機後の国際経済の現状と今後の展望」

講師: ジェトロ海外調査部国際経済研究課 課長 東野 大 氏

5F ラウンジ

2月19日 13:30 ~ 15:30
財京都産業21 ジェトロ京都情報デスク
TEL: 075-325-2075
E-mail: jetro-kyoto@ki21.jp

【お問い合せ先】

(財) 京都産業 21 事業推進部 市場開拓グループ

TEL: 075-315-8590 FAX: 075-323-5211

E-mail: market@ki21.jp



計る・包む・検査する

トータルソリューションのイシダ。

イシダは、計量技術を核に、生産から物流、流通などのあらゆる分野に、先進の技術と豊富な経験でお客様を総合的にサポート。確実なメリットをお約束します。



株式会社イシダ

■お問い合わせは

本社/京都市左京区聖護院山王町44番地 〒606-8392 TEL. (075) 771-4141

http://www.ishida.co.jp

ジェトロ京都情報デスク貿易セミナー

11月26日(木)、京都商工会議所において行われた「ジェトロ京都情報デスク貿易セミナー」の講演の様相を紹介します。

テーマ

「中国の経済政策と消費市場の行方～中国の景気刺激策の動向と最新マーケティング事情～」



ジェトロ海外調査部
中国北アジア課
課長代理
中井 邦尚 氏

●回復傾向を強める中国経済

2008年9月以降の世界的金融危機の影響を受け、'08年後半から'09年の第一四半期の中国経済は厳しい状態でした。しかし中国政府が大規模かつ機動的な景気刺激策を打ち出し、第二四半期以降大きく中国経済は持ち直してきています。欧米そして日本経済がおぼつかない中、中国市場をどう生かし開拓していくかに関心が集まってきています。

1978年の改革開放から'07年までの30年間で、中国の平均GDP成長率は9.8%、GDP総額は68倍に伸びました。四半期ベースでの実質GDP成長率でも、'09年の8%成長の達成はほぼ確実といわれています。GDP成長率に対する項目別寄与度を見ると、資本形成総額が最も高く、投資が成長を牽引していることがわかります。工業生産の伸び率も回復傾向にあります。また中国では自動車販売台数が非常に伸びており、'09年の年間販売台数は1300万台に達するといわれるほど好調です。株価も'08年の9～10月を底に回復傾向にあります。若干厳しいのが輸出・輸入で、'08年11月以降12ヶ月連続で前年同月比マイナスとなっています。国内の供給過剰によって物価の下落が続く、デフレへの懸念もあります。ただ中国は各地域の輸出依存度が異なるため、金融危機で受けた影響も地域によって異なります。各地域の経済成長率も、沿岸部と内陸部では大きく異なるのが中国の特徴です。

●景気刺激策の具体例

中国政府は、経済の回復を図るべく様々な角度から対策を実施しています。輸出面では、同年8月以降7度にわたり繊維製品などの輸出増値税還付率の引き上げを実施し、輸出を支援しています。また金利や預金準備率の引き下げも実施し、株式市場へのテコ入れを行っています。

そして新聞紙上でも話題の4兆元(53兆円)の景気刺激策については、交通インフラに重点投入されています。さらに主要10大産業の調整振興計画が実施されています。「4兆元」は需要を押し上げる対策ですが、この調整振興計画はむしろ供給面を調整するものです。1年目の'09年は、金融危機の影響で苦しむ業界の救済策を軸にしています。2010年以降は企業再編や設備淘汰、自主イノベーションの支援にシフトし、主要産業の自律的・安定的発展を助けていきます。なかでも設備製造業(国民経済の各部門が拡大再生産する際に技術設備を提供する各製

造工業の総称)においては、重点プロジェクトにおける設備の国産化を進めています。

日本企業にとってのメリットとしては、短期的には4兆元の刺激策を通じた鉄道インフラ向けの電気系統部品、送配電関連の受注が増大しています。長期的には、中国は自主イノベーションの強化、国産化を推進していきます。しかし、なかなか自国の技術が育っていません。その意味で、今後は中国市場を目指す外国企業に技術供与を求める傾向が強まっていくと考えられます。

消費促進策としては「家電下乡計画」が実施されています。国が指定する製品を買った農村戸籍の消費者に、購入金額の13%を還元するものです。

今後の中国経済の展望として、持続的に成長できるかが課題となります。依然として投資依存型であり中国が目指す消費主導型とは程遠い状況です。今後は消費を促進して内需主導型の成長を達成できるかどうかが焦点となります。

●市場としての中国

中国が「世界の市場」といわれ始めた'01年ごろ、それは13億人の人口のごく一部である富裕層市場のことを指しました。しかし現在では、消費力を持った市場は沿海地域の大都市にとどまらず、周辺都市さらには内陸部の一部の地域にも拡大しています。それは、様々な市場特性や消費者層を同時に対象としなければいけないことを意味します。つまり中国は一つの市場ではなく、色々な要素を併せ持った複合市場と言えます。

中国における消費統計は順調に推移していますが、必ずしも消費イコール個人消費を意味しません。中国は日本と違って政府が非常に大きいので、政府機関や団体がまとめ買いする、従業員に福利厚生の一環で物を供与するといった習慣があります。このような集団消費が消費総額の17%を占めるという分析もあります。つまり消費統計が伸びても、必ずしも個人収入や個人消費が伸びているとは限らないのです。

また、中国の所得水準は高い伸び率を示しており、2000年ごろの一部富裕層の所得水準は、現在の中間層の所得に相当します。こうした中、外資系企業のターゲットは富裕層から中間層へと拡大しています。

中国の消費者の特徴は世代で大きく異なります。特にいま消費を牽引しているのが1980～90年代に生まれた若年層です。彼らは中国人によく見られる見栄やメンツに捕われず、他人と異なるものを欲しがります。そんな個性重視の観点から消費が進んでいます。もちろん、人脈の維持や見栄のためにお金を使う富裕層もいて、この見栄の部分で中国の消費が押し上げられている側面があります。

●沿海・内陸市場の特性

華東に位置する上海は様々な国の企業が市場開拓に向けてしのぎを削っており、様々な商品が集まる「オリンピック市場」とも言える市場です。上海で市場開拓を目指す企業が多いのは、百貨店が多く立ち並ぶなど販売面の条件が非常に整っているからでもあります。また上海で売れ筋の商品は、各地のバイヤーによって全国に紹介されやすいという側面もあります。その意味で上海市場は中国市場開拓のゲートウェイと言えます。また、可処分所得が伸びている上海周辺市場も今後は注目できます。

華北市場の消費者の特徴は、かつては「地味」「朴訥」といった言葉で形容されることもありましたが、若年層の台頭で車好きの若者やお洒落に敏感な若い女性が増えています。また、大型のショッピングセンターが続々とオープンし商圏も拡大しています。北京市場では集団消費が旺盛で、贈答用など高級品の需要が高いのも特徴です。

華南市場の消費者は理性的で「実用性」を重視し、衝動買いをあまりしません。しかし消費支出額は高く、また香港市場の影響で欧米のトレンドを把握している傾向にあります。

沿海のみならず内陸部にも一定規模の富裕層が存在しています。特に四川省・成都市は消費力が強く、消費者は貯蓄よりも食事・レジャー・ショッピングを志向します。外資系小売店の進出も多く、日系を含む多くの外資系小売業が市内に店舗を開設しています。特にイトーヨーカドーは連日大変多くの客で賑わっています。内陸市場の課題としては、物流インフラの整備の必要性、また、日系企業の直接展開が困難なため販売力のある現地代理店を介する必要があると挙げられます。

●中国市場開拓に向けた取組み紹介

アサヒビールは'08年に、「安心・安全・美味しい」をキーワードに品質管理を徹底した無調整牛乳「唯品 純牛乳」を出荷しました。オーストラリアとニュージーランドから乳牛を導入し、自社牧場で一貫生産しています。1リットルあたり22～



24元（300円以上）と高価格ですが、北京・上海で非常に売上げが好調です。日本の食品に対する安心・安全なイメージが売上げに繋がっているようです。

新潟県三条市のパール金属は、日本全国のホームセンターなどに3万点余りの日用雑貨を提供しています。三条市と友好関係にある湖北省鄂州市から受け入れた研修生が、「パール金属の製品を中国で販売したい」と申し出たことから中国でのビジネスが始まりました。ある百貨店に出店したところ非常に好評で、他の百貨店からの出店要請が相次ぎました。特に北京・上海での出店効果が高く、現在では高級百貨店を中心に160店舗を展開しています。同社は日本製の高付加価値な鍋・洋食器・台所製品を中国で販売し、日本では中国で調達した低価格製品を展開しています。売価が日本の5倍になる商品もありますが、このような価格でも売れるのが現在の中国市場なのです。

中国市場の開拓においては、まず消費者の実際の消費行動の把握が必要です。どんなものを買いたいのかというアンケート調査を行っても、見栄で回答する人が多く調査が実態を反映しないケースも少なくありません。また、中国人の消費行動や複雑な商習慣を理解するためには、中国側パートナーの選定・連携強化が必要です。中国は単一市場ではないので、地域ごとの所得レベルと消費レベル、消費者の嗜好などをきめ細かく把握し、日本企業の得意とする「健康、安全、安心、エコ」とをどのように結びつけていくのが重要となります。

本日はありがとうございました。

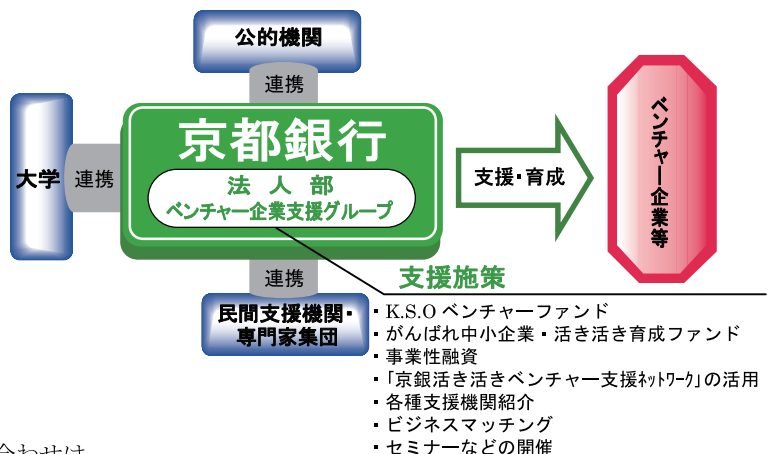
【お問い合わせ先】 (財) 京都産業 21 ジェトロ情報京都デスク

TEL:075-325-2075 FAX:075-315-9091
E-mail: jetro-kyoto@ki21.jp

ベンチャー企業支援グループのご案内

業務内容

- ベンチャーファンドによる株式投資やご融資を通じて、事業資金のサポートを行います。
- 資金面の支援だけでなくとどまらず、公的機関・専門機関・大学等のネットワークである「京銀活き活きベンチャー支援ネットワーク」等を通じ、経営相談をはじめベンチャー企業のあらゆるニーズにお応えします。



飾らない銀行
京都銀行 法人部

お問い合わせは

ベンチャー企業支援グループ

TEL.075(361)2293
TEL.075(341)5984

少量多品種の大型鋳物加工で クイックアクション&クイックレスポンスを実現!

京都府内南部地域と比べて交通インフラをはじめとする経営や雇用の環境が厳しい北部地域において、自社の強みを生かし、将来の産業構造や顧客ニーズに備えて努力を続けている中小企業を紹介します。



サント機工株式会社
代表取締役社長 山下 信幸 氏

(話し手)常務取締役 荻野 誠司 氏 /
取締役 生産部長 山下 敬史 氏

所在地 ●綾部市井倉新町南大橋16

TEL ●0773-42-0419

FAX ●0773-42-7210

業 種 ●金属・精密機械加工、組立加工

▲山下 信幸 社長

●事業内容について

当社は昭和27年に創立しました。金属加工から組立まで一貫生産しており、加工部品の中で最も多く扱っているのが鉄の鋳物です。船舶用エンジンや歯科医療機器部品、繊維機械部品といった産業用機械に使われる鋳物部品が主な製品です。鋳物は型があり大量生産されるイメージがありますが、実際は船舶用エンジンなど少量多品種のケースがほとんどです。少量多品種の大型鋳物の加工を手掛ける企業は北部ではおそらく当社だけで、特に当社の場合、最大で1m位までの大型鋳物を扱っているのが特徴です。

●当社の強み

小さな鋳物であれば何千、何万という大量ラインに乗せて流せますが、5個や10個のロットで段取り変えする大型・少ロットの鋳物は通常はライン化しません。そんなライン化できない加工生産に特化していることが、当社の強みです。



鋳物メーカーとのコラボレーション ▲当社が生産するエンジン部品も行っています。どうすればより精度が上がるかをメーカーと話

し合い、加工だけでなく素材についても一緒に考えることもあります。こういった提案型営業はここ2～3年で確立しました。

さらに、全従業員にコスト管理を徹底させる体制も取っています。例えば機械の稼働状況をきちんと管理し、空いている機械があればすぐに仕事をを入れるなど、無駄を省いています。なおかつどのくらいの時間で加工できるのかという目安もわかります。この「クイックアクション・クイックレスポンス」で、お客様との信頼関係を築いてきました。



▲三次元測定による測定作業

●今後の抱負

現在、外国人研修生4名を採用し、将来の海外展開に備えています。また、産業構造が省エネやエコ対策にシフトし大きく変わりつつある中、当社は柔軟に対応できる仕組みを整え、加工を基軸にしながらさまざまな分野に展開したいと考えます。特に船舶エンジンは環境基準が厳しくなっており、ある程度の条件をクリアしないと市場に供給されません。当社では今後の厳しい環境基準に適応したエンジン部品の試作も行い、お客様のニーズに合致した営業を展開しています。

●財団等との連携

北部支援センターができたことで設備利用などもでき、役に立っています。今後、産業構造が変化する中で、当社だけで対応するのは難しく、同業者、異業種との連携がますます重要になってきます。その意味で、今後の市場の変化を見据えた上で、京都府だけでなく、他府県や海外とのネットワークを作り、コラボレーションの機会が生まれれば良いと思います。

【お申し込み・
お問い合わせ先】

(財) 京都産業 21 北部支援センター

TEL: 0772-69-3675 FAX: 0772-69-3880
E-mail: hokubu@ki21.jp

OMRON

気になる部位ごとの
「皮下脂肪率」「骨格筋率」がわかる。

Karada Scan
オムロン 体重体組成計 カラダスキャン



「人は外見より中身」
なんて言ったら、
中までチェック
されちゃった。



オムロン体重体組成計「カラダスキャン」HBF-362
オープン価格

オムロン ヘルスケア株式会社

〒615-0084 京都市右京区山ノ内山ノ下町24番地 <http://www.healthcare.omron.co.jp>

購入前相談や商品の使い方などお気軽にお問い合わせください。
受付時間 祝日を除く(月～金) 9:00～19:00 (都合によりお休みさせていただくことがあります)

オムロン お客様サービスセンター

☎0120-30-6606

平成21年度「きょうと農商工連携応援ファンド支援事業」の採択について

独立行政法人中小企業基盤整備機構、京都府及び府内の農業団体や金融機関などが拠出した25.2億円のファンドの運用益を活用した「きょうと農商工連携応援ファンド支援事業」について、この度以下の事業が採択されました。同支援事業は、農林漁業者と中小企業者が連携して、それぞれの強みを活かした新商品・新サービスの開発等を支援するもので、対象事業費の2/3以内について、限度額300万円以内で助成されるものです。同支援事業は10年間実施されるもので、次回募集は平成22年春の予定です。

平成21年度きょうと農商工連携応援ファンド支援事業助成金採択事業一覧

地域	申請者名	所在地	事業概要
丹後	農林漁業者 中野 浅男	宮津市	毎生産時に出る粒不揃いの商品を使用した苺スパークリング酒の開発・販売 ・需要期外や規格外の苺を冷凍保存し、苺リキュールに加工販売する。
	中小企業者 (株)ハクレイ酒造 代表取締役 中西 哲也	宮津市	
丹後	農林漁業者 岩井 龍也	伊根町	規格外京野菜を活用した独自加工品(九条ねぎ味噌、伏見唐辛子味噌)の開発、製造、販売事業 ・ブランド京野菜の規格外品を活用した商品開発、販売。
	中小企業者 筒川味噌の会 岡田 博美	伊根町	
中丹	農林漁業者 古関 巖	福知山市	京都夜久野高原 元気な野菜のお菓子と惣菜 ・規格外農産物を料理店のノウハウで惣菜、菓子に加工販売。
	中小企業者 (株)サリーズ 代表取締役 安藤 由香	福知山市	
南丹	農林漁業者 田井 進	京丹波町	命を粗末にしない循環ビジネス—鹿肉・猪肉を食卓に ・農林産物に被害を与えている猪や鹿の肉を和知猟友会メンバーが狩猟し、精肉、皮を加工販売する。ネット販売や店舗食材としての卸販売。
	中小企業者 (株)スキップジャパン 代表取締役 川崎 良樹	京都市中京区	
京都	農林漁業者 (株)山国さがけセンター 代表取締役 大栢 隆	京都市右京区	純地元産の農産物を使った地産地消型レストランの展開 ・京北特産の納豆もちづくりの体験施設を整備。あわせてもち商品、さば・へしこそばを提供。商工会の協力も得て体験型観光展開を図る。
	中小企業者 (株)和風レストランけいほく 代表取締役 田尻 和人	京都市右京区	
京都	農林漁業者 ふれあい朝市生産者連絡会 生産者代表 比賀江 義次	京都市右京区	地元の野菜を「京北杉」で燻った、いぶり干し製品づくり事業 ・商工会女性部で取り組んできた特産品開発事業をベースに、ふれあい朝市生産者グループ、京北銘木生産協同組合とも連携し、いぶり干し食品生産の独立事業化を図る。
	中小企業者 京都・京北つけもの工房 いぶり 一瀬 裕子	京都市右京区	

【お申し込み・
お問い合わせ先】

(財) 京都産業 21 連携推進部
産学公・ベンチャー支援グループ

TEL:075-315-9425 FAX:075-314-4720
E-mail:sangaku@ki21.jp

未来ってどうなっているんだろう？

空飛ぶ車、ロボット、飛び出す映画…。
私たちの仕事は電子部品というタネを、
エレクトロニクスの世界に送り込むこと。
つまり、あなたが想像する豊かな未来を実現すること。
携帯電話、カーナビ、パソコン…。
ほら、ちょっと前に想像していた未来が、
もう今は実現されているでしょう？
私たちの創る小さな部品は、未来の始まり。
小さな部品で、エレクトロニクスの世界に
たくさんの花を咲かせていきます。



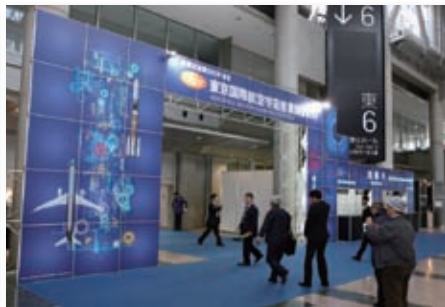
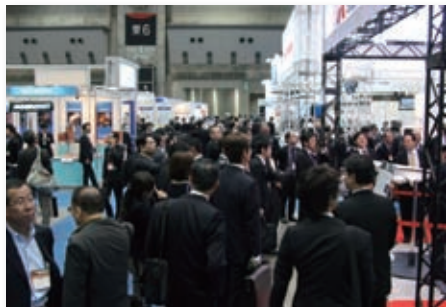
ムラタの部品が
未来を創る。

Innovator in Electronics
muRata
村田製作所

株式会社村田製作所 本社：〒617-8555京都府長岡京市東神足1丁目10番1号 お問い合わせ先：広報部 phone:075-955-6786 <http://www.murata.co.jp/>

東京国際航空宇宙産業展2009

今後、市場の拡大が見込まれる航空機産業に参入を目指す中小企業の支援と、国内最大の産業集積地である東京から日本の高度な技術を世界に向け発信することを目的として、11月4日(水)から6日(金)の3日間、東京ビックサイトにおいて「東京国際航空宇宙産業展2009」が開催され、その中に京都産業21がブースを設け京都企業11社が展示されました。



出展者数は国内大手重工業をはじめとする海外航空機メーカーなど286企業・団体で、来場者数は3日間で21,821人でした。初日の夜には華やかにレセプションが行われ、出展者同士の交流がひろがりました。



出展者一覧

(株)井尾製作所 (株)木村製作所 京都試作ネット (株)KOYO熱錬 小西精工(株)
(株)三翔精工 (株)積進 東海電工(株) ハムス(株) ヒロセ工業(株) (株)フジタイト

出展された企業については、クリエイティブ京都M&T10月号で詳しくご紹介しています。

ゲームソフトからモバイルコンテンツまで
多彩なデジタルエンターテインメントを創造し、広く社会に貢献します。

事業内容… ◎ゲームソフト企画・開発
◎モバイル・インターネット関連コンテンツ企画・開発・運営
事業拠点… 京都4拠点、東京、名古屋、札幌、沖縄
中国(上海・杭州)、アメリカ(カリフォルニア)



地球のココロおどらせよう。



株式会社 トーセ

〒600-8091 京都市下京区東洞院通四条下ル
TEL.075-342-2525 FAX.075-342-2524

ホームページ <http://www.tose.co.jp/> 〈証券コード4728、東証・大証一部上場〉

